

特集 資料室企画展 2015

人と防災未来センター資料室では、2015年度企画展「1.17のしるしーイマ／ココから考える」を12月8日（火）より開催しています。今号の資料室ニュースでは、企画展についてお伝えします。

1.17 のしるし

The RECORD and the REPRESENTATION of 1.17
ーイマ／ココから考える
NOW and HERE

第1期

2015年12月8日（火）... 2016年1月24日（日）

会場：人と防災未来センター西館1Fロビー

第2期

2016年1月26日（火）... 2016年2月28日（日）

会場：人と防災未来センター西館5F資料室



開催にあたって

阪神・淡路大震災にまつわる体験や記憶は、さまざまな「しるし」を生み出しました。

本企画展は、この21年間に残されてきた多様なメモリアル表現を振り返り、2016年を迎えるイマ、私たちの暮らすココで伝える営みを再考します。

1995年1月17日の出来事は、集められた震災資料や、街角に置かれたモニュメントや、震災体験の語り継ぎなど多様な取組みによって、それぞれに伝え続けられてきました。

数々の「しるし」の一端を、人・声・場所・時・手段に着目して見てみましょう。

人と防災未来センター資料室

展示構成

PART1 1995.1.17 前→後

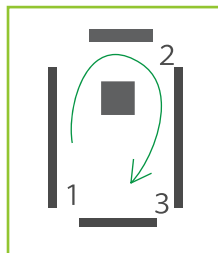
- ① 震災資料にみる1995.1.17
- ② 震災前～直後“ミナト神戸”の風景
- ③ HAT神戸のなりたち

PART2 1.17とメモリアルをめぐる

- ④ メモリアルセンターをめぐる言説の展開
- ⑤ “1.17メモリアル”に関わる取組みの推移
ー資料収集・モニュメント設置・語り継ぎ・新たな取組み

PART3 ○○の語る1.17

- ⑥ 記録・表象としての震災資料
- ⑦ イマ／ココで発する言葉の力
- ⑧ 災害のおそろしさを忘れないためには、何ができるかな？

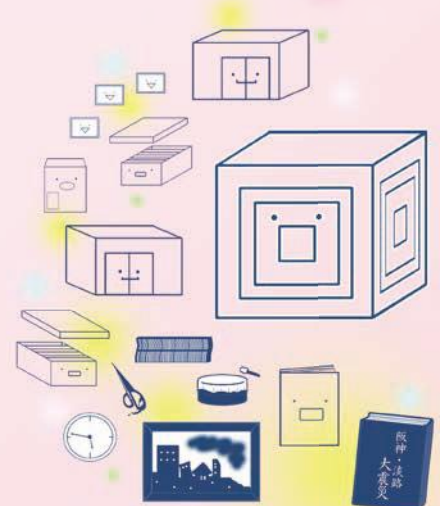


準備にあたっては多くの方々に
ご協力いただきました。

言葉のやりとりや注目した資料、

新たに撮影した写真などの

「メイキング」をご紹介します。





「1.17 のしるし」 メイキング

2002年4月に開館した人と防災未来センターは、ここ HAT 神戸で
“1.17 メモリアル”と“防災・減災”を伝えてきました。(①)

本企画展では、HAT 神戸というイマ／ココに着目して、エリアのなりたちやその一要素である当センターのあゆみを取り上げています。(②③④)

そして、現在まで 1.17 の記憶と記録を繋いでいる他施設・組織が“1.17 メモリアル”として行ってきた取組みを調べ、おうかがいし、これまでの被災地でのメモリアルの展開を、資料収集・モニュメント設置・語り継ぎや、表象として収められた震災資料などに着目して整理しました。(⑤⑥⑦)

PART 1 1995.1.17 前→後

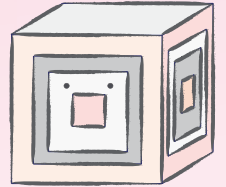
① 震災資料にみる1995.1.17

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターには、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を物語る「震災資料」が約19万点所蔵されています。資料と持ち主の「語り」は“1.17の記憶”を伝え続けるものです。

このセクションでは、1.17の前にあった暮らしや被災直後の状況を寄贈者の声から想像していただくために、大きな地震の衝撃や家屋の倒壊や火災で破壊されて止まったり・割れたり・焼けたり・歪んだりした身の回りのモノを取り上げました。

また、2015年度は夏から、1400点余のモノ資料すべてを撮影しなおしています。資料サイズを分けて、目録を整理し、集中的に撮影業務を行うとともに、個々の資料の状態調査や保存環境の再検討にも力を入れています。さまざまな方からお預かりした大切な資料が、1.17の記憶をつなぎ続けられるように、と願っています。

企画展の
制作過程です。



展示物の例



カギと爪切り (永井信夫氏)



佛子助から出てきたたちばさみ (山本康子氏)



全壊家屋の下敷きとなり壊れたアンティークカメラ (平野政一氏)



震災で折れたゴルフクラブ (岩崎重一氏)



溶けたガラス食器 (本家オランダ館)



▲ 3階展示フロアでの撮影風景



▲ 収蔵庫での撮影風景

撮影風景



PART 1 1995.1.17 前→後

② 震災前→直後“ミナト神戸”の風景

③ HAT神戸のなりたち

神戸と言えばイメージされる、山と海のある風景。1980年代後半には生産・流通の産業形態が大きく変わり、その影響は神戸の臨海部の風景にも表れていきました。

人と防災未来センターの立地する HAT 神戸は震災後に整備された新しいまちです。神戸市の東部臨海部として神戸経済を支えたこのエリアも、阪神高速道路高架橋の南側に位置した神戸製鋼所脇浜・岩屋工場や川崎製鉄葺合工場などの臨海型大規模工場の移転によって、遊休地の有効活用と港湾の再開発が目指されるようになっていました。

そして 1995 年の震災後には、従前の整備計画を下地に震災後の復興計画が立てられ、多くの住宅供給と新たな市街地整備が進められました。

地区の愛称は 1996 年 6 月に HAT 神戸 (Happy Active Town 神戸) に決まりました。まちびらきをした 1998 年末の HAT 神戸の人口は約 2,300 人に過ぎませんでしたが、2015 年 9 月現在では 12,000 人を超える人々がここに暮らしています。

これからどのようなまちに育つか、ひとばう資料室も私たちなりに考えてみるために、まずはエリアのあゆみを振り返ってみました。

PART 2 1.17とメモリアルをめぐる

④ メモリアルセンターをめぐる言説の展開

人と防災未来センターは 2002 年 4 月に開館しました。阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想が具体化した 2000 年から 2002 年にかけては、施設の意義や展示のあり方について、さまざまな議論が繰り広げられました。

ここでは、メモリアルセンターの整備にあたって『神戸新聞』紙上で語られてきた言葉や動きを概観しました。何かが新たに創られたり変わったりするときには、数々の声が上がります。新聞紙面にあらわれたさまざまな声を、ご覧いただけるセクションです。



▲ 震災前 1985 年 (昭和 60 年)



▲ 震災後 2004 年 (平成 16 年)

出典：「東部新都心地区土地区画整理事業完了記念
HAT 神戸まやウォーターフロントのあゆみ」神戸市 2005 年



PART 2 1.17とメモリアルをめぐって

⑤「1.17メモリアル」に関わる取組みの推移

—資料収集・モニュメント設置・語り継ぎ・新たな取組み

HAT 神戸の中にあるモニュメントの撮影に、トライやる・ウィークで 11/10-11 にひとぼう資料室に来てくれた歌敷山中学校の 2 年生 2 名と出かけました。さりげなく置かれたモニュメントや、遊具のかたちに込められた想い、神社の境内にある句碑など、ふだん気がつかない佇まいで、身の回りに「1.17 のしるし」が存在することを感じていただければ、と思います。

またモニュメント設置に関しては、既存の書籍やモニュメントマップをもとに、設置年代や所在地、設置者をまとめた表を作成し、展示作成の参考としました。2000 年がピークなのではという予想に反して 1996 年設置のモニュメントが最も多く、かなり早い段階から 1.17 の経験を未来に残そうという動きが始まっていることがわかりました。設置者別に見ると、神社や寺院などの宗教関係が全体の 1/3 強を占めています。寺社では灯籠や狛犬などを建てる時、寄進者が誰で、いつ建てられたのかを本体や土台に刻み込むことがよくあります。この習慣があったために、モニュメントの設置も多いものと考えられます。自治会やまちづくり協議会など、地元住民の団体による設置もたくさんあります。震災後に強まった地域の結束。そのつながりが目に見えるかたちになったのがモニュメントではないでしょうか。

震災当時の様子を聞く、モニュメントを見る。そこから今とこれからを考えるのも、語り継ぎの場といえるかもしれません。

HAT神戸のモニュメントマップ



PART 3 ○○の語る1.17

⑥ 記録・表象としての震災資料

⑦ イマ／ココで発する言葉の力

絵本、画文集、社史そして絵画や歌など、それぞれのかたちで記憶を残した資料を取り上げました。震災の出来事や記録も、誰が・何を・いつ・どうやって・どんな風にまとめたのかによって、違ったものができあがります。絵画や画文集は特にわかりやすいかもしれません。見た風景や感じたもの、考え方など、つくった人自身がそこに表れています。最近では、震災を体験していない人の手でつくられたものも登場しました。ご紹介した 2 つの絵本は、どちらも震災の体験を聞いた大学生、小学生が作成したものです。当時の様子を伝える内容ですが、当事者というひとつのフィルターではなく、作品をつくった方々のメッセージも重ねられています。また、ご紹介したなかには現在でも冊子の発行や、グループでの活動などを継続されているものもあります。誰かの「イマ／ココ」だった震災時の出来事が、時や場所を超えて何かが生み出されるきっかけにもなっています。



2015 年 1 月 17 日には、阪神・淡路大震災から 20 年が経過しました。被災した自治体や、1995.1.17 の出来事を伝えるために取り組んできた方々のイマの声を、20 年を機に発行された記念誌から集め、ご紹介しました。なお西館 5 階の資料室には関連図書コーナーも設けていますので、ぜひお立ち寄りください。



SPECIAL # 1

人と防災未来センター設計模型

この模型は、人と防災未来センターの建物の設計を行った 2 つの設計会社によって製作されたものです。(2001 年 1 月完成)

- ・西館（開館当時の呼称「防災未来館」）の設計：(株)昭和設計
- ・東館（開館当時の呼称「ひと未来館」）の設計：(株)日本設計

センターオープン前の PR 活動の一環として、首都圏でのフォーラムや展示会でも展示されました。

- ・防災シンポジウム：2002 年 1 月 29 日、於 東京国際フォーラム
- ・震災対策技術展：2002 年 2 月 14 日～15 日、於 パシフィコ横浜

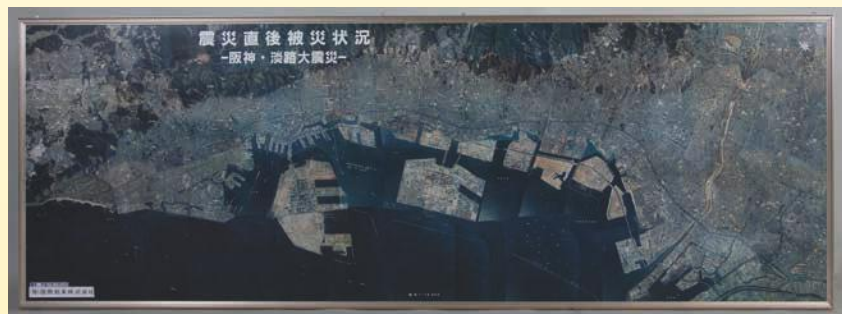


SPECIAL # 2

航空写真パネル「震災直後被災状況」

1995 年 1 月 21 日に国際航業株式会社によって撮影された航空写真「震災直後被災状況—阪神・淡路大震災—」(5200090-002001)を実物展示します。西は須磨区から東は尼崎市までの範囲が写された高さ 1m、幅 3m 余のパネルです。

国際航業株式会社は、発生した自然災害の復旧・復興活動に対し、被災情報を把握するための航空写真撮影等の災害調査活動を継続的に行っています。阪神・淡路大震災に関しても直後、1 年後、3 年後に撮影した航空写真パネルを 2005 年にご寄贈いただきました。

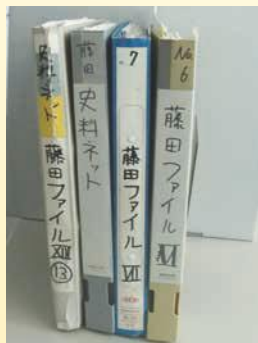


新規公開資料紹介

藤田明良氏 寄贈資料 (調査先番号 0000459)

自然災害によって被災した地域歴史資料の救出・保全に取り組んでいるボランティア団体「歴史資料ネットワーク」の関係資料を新たに公開しました。

阪神・淡路大震災の被災地では、地域や個人・団体の歴史資料が、倒壊した建物の下敷きとなったり、廃棄されるなどの事例が多くありました。これに対し、関西の歴史研究者たちが被災地の歴史資料を保全するために設立したボランティア団体が「歴史資料ネットワーク」(略称:史料ネット)です。史料ネットは被災地で活動が続け、地域の歴史を伝える古文書や自治会の記録、ミニコミ紙などを保全し、その数は段ボール箱約1500箱にのぼりました。



今回、公開された資料は、史料ネットの活動を当時事務局長として行っていた藤田明良さんが所蔵していたものです。その内容は、史料ネットの会議資料や、歴史資料の被災状況調査に関わるもの、さまざまな団体・個人とのやりとりを記録したものなど試行錯誤のなかで活動が進められたことがうかがえます。すでに資料室では史料ネットの関係資料として、寺田匡宏さんの寄贈資料(調査先番号0000433)を公開しています。藤田明良さんの資料の公開で阪神・淡路大震災の地域歴史資料の救出・保全活動の全体像がより明確になることが期待されます。

閲覧をご希望の方は、資料室スタッフまでお気軽にお問い合わせください。

トライやる・ウィーク



▲神戸市立歌敷山中学のおふたり

兵庫県では中学2年生が職場を体験する「トライやる・ウィーク」を実施しています。当センターでも毎年いくつかの学校の生徒さんを受け入れています。10月と11月は神戸市灘区の鷹匠中学校、垂水区の歌敷山中学校の2校から2人ずつ体験に来られ、資料室では2日間、業務をお手伝いしてもらいました。

今回は収蔵庫での清掃や、資料を入れた箱用のラベル作成、そして一次資料の出し入れなど、資料の整理や保存現場での体験が主となりました。7Fにある収蔵庫のほか、3Fの展示の背面にひっそりとある収蔵スペースに入っただけの作業もたくさんあり、「お客さんの目が気になった」「こんなところに入れるなんて知らなかった」「動物園の檻みたいだった」など、ドキドキする体験となったようです。

鷹匠中学校の生徒さんには、資料室恒例でもある図書の特集コーナーづくりを行いました。「私たちのおすすめ本」として資料室の二次資料のなかから選書し、吹き出しにオススメポイントを書いてPOPをつくってもらいました。



▲神戸市立鷹匠中学校のおふたり

歌敷山中学校の生徒さんには、企画展の準備にも活躍してもらい、当センター近隣にあるモニュメントの撮影やチラシの発送作業も一緒に行いました。数百枚のチラシを数えて分ける作業でも、自分たちでうまく分担し、楽しそうに作業していたのが印象に残っています。その成果は、どうぞ企画展でご覧ください。

物を運んだり、PCに入力して資料を管理することは私たちの日ごろの業務ですが、中学生のみなさんにとってはすべてが新鮮で未知の世界。大人になってからふとこの体験を懐かしく思い返してもらえることがあればいいなと思っています。



震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。震災後、すぐには手放せなかったものの、震災の出来事を伝えるために活用したいとお考えの方は、ぜひ一度資料室までご相談ください。

Facebook ページ

「ひとぼう資料室」が
500 いいね！を達成しました★

応援をありがとうございます！
これからも更新を続けますので、
どうぞよろしくお願いします。

Find us on f



いつも応援ありがとうございます。



(公財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 人と防災未来センター西館 5 階

TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

URL <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30 ~ 17:30 (展示施設とは時間が異なりますのでご注意ください)

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 12月29日から1月3日

